



Azure NetApp Files

Trident

NetApp
January 15, 2026

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/trident-2506/trident-use/anf.html> on January 15, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Azure NetApp Files	1
Azure NetApp Filesバックエンドを構成する	1
Azure NetApp Filesドライバーの詳細	1
AKS のマネージド ID	1
AKS のクラウド ID	2
Azure NetApp Filesバックエンドを構成する準備をする	4
NFSおよびSMBボリュームの前提条件	4
SMBボリュームの追加要件	6
Azure NetApp Filesバックエンド構成オプションと例	7
バックエンド構成オプション	7
構成例	10
ストレージクラスの定義	17
バックエンドを作成する	20

Azure NetApp Files

Azure NetApp Filesバックエンドを構成する

Azure NetApp Files をTridentのバックエンドとして構成できます。Azure NetApp Files バックエンドを使用して、NFS および SMB ボリュームを接続できます。Trident は、Azure Kubernetes Services (AKS) クラスターのマネージド ID を使用した資格情報の管理もサポートしています。

Azure NetApp Filesドライバーの詳細

Trident は、クラスターと通信するために次のAzure NetApp Filesストレージ ドライバーを提供します。サポートされているアクセス モードは、*ReadWriteOnce* (RWO)、*ReadOnlyMany* (ROX)、*ReadWriteMany* (RWX)、*ReadWriteOncePod* (RWOP) です。

ドライバ	プロトコル	ボリュームモード	サポートされているアクセスモード	サポートされているファイルシステム
azure-netapp-files	NFS SMB	Filesystem	RWO、ROX、RWX、RWOP	nfs、 smb

考慮事項

- Azure NetApp Filesサービスは、50 GiB 未満のボリュームをサポートしていません。より小さいボリュームが要求された場合、Trident は自動的に 50 GiB のボリュームを作成します。
- Trident は、Windows ノードで実行されているポッドにマウントされた SMB ボリュームのみをサポートします。

AKS のマネージド ID

Tridentのサポート["マネージドID"](#)Azure Kubernetes Services クラスター用。マネージド ID によって提供される合理化された資格情報管理を活用するには、次のものがが必要です。

- AKS を使用してデプロイされた Kubernetes クラスター
- AKS Kubernetes クラスターで構成されたマネージド ID
- Tridentがインストールされており、cloudProvider`指定する ` "Azure"。

Tridentオペレーター

Tridentオペレータを使用してTridentをインストールするには、
tridentorchestrator_cr.yaml`設定する `cloudProvider`に ` "Azure"。例えば：

```
apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentOrchestrator
metadata:
  name: trident
spec:
  debug: true
  namespace: trident
  imagePullPolicy: IfNotPresent
  cloudProvider: "Azure"
```

舵

次の例では、Tridentセットをインストールします cloudProvider`環境変数を使用してAzureへ
`\$CP:

```
helm install trident trident-operator-100.2506.0.tgz --create
--namespace --namespace <trident-namespace> --set cloudProvider=$CP
```

`<code>`トライデントctl</code>

次の例では、Tridentをインストールし、cloudProvider`フラグを `Azure:

```
tridentctl install --cloud-provider="Azure" -n trident
```

AKS のクラウド ID

クラウド ID を使用すると、Kubernetes ポッドは、明示的な Azure 資格情報を提供する代わりに、ワークロード ID として認証することで Azure リソースにアクセスできるようになります。

Azure でクラウド ID を活用するには、次のものがが必要です。

- AKS を使用してデプロイされた Kubernetes クラスター
- AKS Kubernetes クラスターで構成されたワークロード ID と oidc-issuer
- Tridentがインストールされており、`cloudProvider`指定する ` "Azure"そして `cloudIdentity`ワークロードIDの指定

Tridentオペレーター

Tridentオペレータを使用してTridentをインストールするには、
tridentorchestrator_cr.yamlに`設定する` `cloudProvider`に`"Azure"`そして設定
`cloudIdentity`に`azure.workload.identity/client-id: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxxx`。

例えば：

```
apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentOrchestrator
metadata:
  name: trident
spec:
  debug: true
  namespace: trident
  imagePullPolicy: IfNotPresent
  cloudProvider: "Azure"
  cloudIdentity: 'azure.workload.identity/client-id: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxxx' # Edit
```

舵

次の環境変数を使用して、**cloud-provider (CP)** および **cloud-identity (CI)** フラグの値を設定します。

```
export CP="Azure"
export CI="'azure.workload.identity/client-id: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxxx'"
```

次の例では、Tridentをインストールし、cloudProvider`環境変数を使用してAzureへ`\$CP`そして、`cloudIdentity`環境変数を使用する`\$CI`:

```
helm install trident trident-operator-100.6.0.tgz --set
cloudProvider=$CP --set cloudIdentity="$CI"
```

<code>トライデントctl</code>

次の環境変数を使用して、クラウド プロバイダー および クラウド ID フラグの値を設定します。

```
export CP="Azure"
export CI="azure.workload.identity/client-id: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxxx"
```

次の例では、Tridentをインストールし、cloud-provider`フラグを`\$CP、そして cloud-identity`に`\$CI`:

```
tridentctl install --cloud-provider=$CP --cloud-identity="$CI" -n
trident
```

Azure NetApp Filesバックエンドを構成する準備をする

Azure NetApp Filesバックエンドを構成する前に、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

NFSおよびSMBボリュームの前提条件

Azure NetApp Files を初めて使用するか、新しい場所で使用する場合は、Azure NetApp Files をセットアップして NFS ボリュームを作成するために、いくつかの初期構成が必要です。参照 ["Azure: Azure NetApp Files をセットアップして NFS ボリュームを作成する"](#)。

設定して使用するには ["Azure NetApp Files"](#)バックエンドでは、次のものがが必要です。



- subscriptionID、tenantID、clientID、location、そして `clientSecret` AKS クラスターでマネージド ID を使用する場合はオプションです。
- tenantID、clientID、そして `clientSecret` AKS クラスターでクラウド ID を使用する場合はオプションです。

- 容量プール。参照["Microsoft: Azure NetApp Filesの容量プールを作成する"](#)。
- Azure NetApp Filesに委任されたサブネット。参照["Microsoft: Azure NetApp Filesにサブネットを委任する"](#)。
- `subscriptionID` Azure NetApp Filesが有効になっている Azure サブスクリプションから。
- tenantID、clientID、そして `clientSecret` から["アプリ登録"](#) Azure Active Directory で、Azure NetApp Filesサービスに対する十分な権限を持っていること。アプリ登録では次のいずれかを使用する必要があります。
 - 所有者または貢献者の役割["Azureによって事前定義済み"](#)。
 - あ["カスタム貢献者ロール"](#)サブスクリプションレベルで(assignableScopes) に、Tridentに必要な権限のみに制限された以下の権限が付与されます。カスタムロールを作成したら、["Azure ポータルを使用してロールを割り当てる"](#)。

```
{
  "id": "/subscriptions/<subscription-id>/providers/Microsoft.Authorization/roleDefinitions/<role-definition-id>",
  "properties": {
    "roleName": "custom-role-with-limited-perms",
    "description": "custom role providing limited permissions",
    "assignableScopes": [
      "/subscriptions/<subscription-id>"
    ],
    "permissions": [
      {
        "actions": [
          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/read",
          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/write",

          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/volumes/read",

          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/volumes/write",

          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/volumes/delete",

          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/volumes/snapshots/read",

          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/volumes/snapshots/write",

          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/volumes/snapshots/delete",

          "Microsoft.NetApp/netAppAccounts/capacityPools/volumes/MountTargets/read",
          "Microsoft.Network/virtualNetworks/read",
          "Microsoft.Network/virtualNetworks/subnets/read",

          "Microsoft.Features/featureProviders/subscriptionFeatureRegistrations/read",

          "Microsoft.Features/featureProviders/subscriptionFeatureRegistrations/write",

          "Microsoft.Features/featureProviders/subscriptionFeatureRegistrat
```

```

ions/delete",
    "Microsoft.Features/features/read",
    "Microsoft.Features/operations/read",
    "Microsoft.Features/providers/features/read",

    "Microsoft.Features/providers/features/register/action",

    "Microsoft.Features/providers/features/unregister/action",

    "Microsoft.Features/subscriptionFeatureRegistrations/read"
  ],
  "notActions": [],
  "dataActions": [],
  "notDataActions": []
}
]
}
}

```

- アズール `location` 少なくとも1つを含む **"委任されたサブネット"**。Trident22.01の時点で、`location` パラメータは、バックエンド構成ファイルの最上位レベルの必須フィールドです。仮想プールで指定された場所の値は無視されます。
- 使用するには Cloud Identity、取得 client ID から **"ユーザー割り当てマネージド ID"** そしてそのIDを `azure.workload.identity/client-id: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxx`。

SMB ボリュームの追加要件

SMB ボリュームを作成するには、次のものがが必要です。

- Active Directory が構成され、Azure NetApp Filesに接続されています。参照["Microsoft: Azure NetApp Filesの Active Directory 接続の作成と管理"](#)。
- Linux コントローラー ノードと、Windows Server 2022 を実行する少なくとも 1 つの Windows ワーカー ノードを備えた Kubernetes クラスター。Trident は、Windows ノードで実行されているポッドにマウントされた SMB ボリュームのみをサポートします。
- Azure NetApp Files が Active Directory に対して認証できるように、Active Directory 資格情報を含む少なくとも 1 つのTridentシークレット。秘密を生成する smbcreds:

```

kubectl create secret generic smbcreds --from-literal username=user
--from-literal password='password'

```

- Windows サービスとして構成された CSI プロキシ。設定するには csi-proxy、参照["GitHub: CSI プロキシ"](#)または["GitHub: Windows 用 CSI プロキシ"](#)Windows 上で実行されている Kubernetes ノード用。

Azure NetApp Filesバックエンド構成オプションと例

Azure NetApp Filesの NFS および SMB バックエンド構成オプションについて学習し、構成例を確認します。

バックエンド構成オプション

Trident は、バックエンド構成 (サブネット、仮想ネットワーク、サービス レベル、場所) を使用して、要求された場所で使用可能で、要求されたサービス レベルとサブネットに一致する容量プールにAzure NetApp Files ボリュームを作成します。



* NetApp Trident 25.06 リリース以降、手動 QoS 容量プールがテクニカル プレビューとしてサポートされます。*

Azure NetApp Filesバックエンドは、次の構成オプションを提供します。

パラメータ	説明	デフォルト
version		常に1
storageDriverName	ストレージ ドライバーの名前	「azure-netapp-files」
backendName	カスタム名またはストレージバックエンド	ドライバ名 + "_" + ランダムな文字
subscriptionID	Azure サブスクリプションのサブスクリプション ID。AKS クラスターでマネージド ID が有効になっている場合はオプションです。	
tenantID	アプリ登録からのテナント ID 。AKS クラスターでマネージド ID またはクラウド ID が使用される場合はオプションです。	
clientID	アプリ登録からのクライアント ID。AKS クラスターでマネージド ID またはクラウド ID が使用される場合はオプションです。	
clientSecret	アプリ登録からのクライアント シークレット。AKS クラスターでマネージド ID またはクラウド ID が使用される場合はオプションです。	
serviceLevel	1つ Standard、 Premium、 または Ultra	「」 (ランダム)
location	新しいボリュームが作成される Azure の場所の名前。AKS クラスターでマネージド ID が有効になっている場合はオプションです。	

パラメータ	説明	デフォルト
resourceGroups	検出されたリソースをフィルタリングするためのリソース グループのリスト	[] (フィルターなし)
netappAccounts	検出されたリソースをフィルタリングするためのNetAppアカウントのリスト	[] (フィルターなし)
capacityPools	検出されたリソースをフィルタリングするための容量プールのリスト	[] (フィルターなし、ランダム)
virtualNetwork	委任されたサブネットを持つ仮想ネットワークの名前	""
subnet	委任先のサブネットの名前 Microsoft.Netapp/volumes	""
networkFeatures	ボリ्यूムのVNet機能のセット。Basic`または `Standard。ネットワーク機能はすべての地域で利用できるわけではなく、サブスクリプションで有効にする必要がある場合があります。指定`networkFeatures`この機能が有効になっていないと、ボリ्यूムのプロビジョニングが失敗します。	""
nfsMountOptions	NFS マウント オプションのきめ細かな制御。SMB ボリ्यूムの場合は無視されます。NFSバージョン4.1を使用してボリ्यूムをマウントするには、`nfsvers=4`カンマ区切りのマウント オプション リストで、NFS v4.1 を選択します。ストレージ クラス定義で設定されたマウント オプションは、バックエンド構成で設定されたマウント オプションをオーバーライドします。	「nfsvers=3」
limitVolumeSize	要求されたボリ्यूム サイズがこの値を超える場合、プロビジョニングに失敗します	"" (デフォルトでは強制されません)
debugTraceFlags	トラブルシューティング時に使用するデバッグ フラグ。例、 `{"api": false, "method": true, "discovery": true}`。 トラブルシューティングを行っており、詳細なログ ダンプが必要な場合を除き、これを使用しないでください。	ヌル

パラメータ	説明	デフォルト
nasType	NFS または SMB ボリュームの作成を構成します。オプションは <code>nfs</code> 、 <code>`smb`</code> または <code>null</code> 。 <code>null</code> に設定すると、デフォルトで NFS ボリュームになります。	<code>nfs</code>
supportedTopologies	このバックエンドでサポートされているリージョンとゾーンのリストを表します。詳細については、" CSI トポロジを使用する "。	
qosType	QoS タイプ（自動または手動）を表します。* Trident 25.06 のテクニカルプレビュー*	オート
maxThroughput	許容される最大スループットを MiB/秒単位で設定します。手動 QoS 容量プールでのみサポートされます。* Trident 25.06 のテクニカルプレビュー*	4 MiB/sec



ネットワーク機能の詳細については、以下を参照してください。"[Azure NetApp Files ボリュームのネットワーク機能を構成する](#)"。

必要な権限とリソース

PVC の作成時に「容量プールが見つかりません」というエラーが表示される場合は、アプリの登録に必要なアクセス許可とリソース (サブネット、仮想ネットワーク、容量プール) が関連付けられていない可能性があります。デバッグが有効になっている場合、Trident はバックエンドの作成時に検出された Azure リソースをログに記録します。適切なロールが使用されていることを確認します。

の値は `resourceGroups`、`netappAccounts`、`capacityPools`、`virtualNetwork`、そして ``subnet`` 短い名前または完全修飾名を使用して指定できます。短い名前は同じ名前を持つ複数のリソースと一致する可能性があるため、ほとんどの場合、完全修飾名が推奨されます。

その `resourceGroups`、`netappAccounts`、そして ``capacityPools`` 値は、検出されたリソースのセットをこのストレージ バックエンドで使用可能なものに制限するフィルターであり、任意の組み合わせで指定できます。完全修飾名は、次の形式に従います。

タイプ	フォーマット
リソース グループ	<リソース グループ>
NetApp アカウント	<リソース グループ>/<netapp アカウント>
容量プール	<リソース グループ>/<netapp アカウント>/<容量プール>
仮想ネットワーク	<リソース グループ>/<仮想ネットワーク>
サブネット	<リソース グループ>/<仮想ネットワーク>/<サブネット>

ボリュームプロビジョニング

構成ファイルの特別なセクションで次のオプションを指定することにより、デフォルトのボリュームのプロビジョニングを制御できます。参照 [\[構成例\]](#) 詳細については。

パラメータ	説明	デフォルト
exportRule	新しいボリュームのエクスポートルール。 exportRule CIDR 表記の IPv4 アドレスまたは IPv4 サブネットの任意の組み合わせをコンマで区切ったリストにする必要があります。 SMB ボリュームの場合は無視されます。	「0.0.0.0/0」
snapshotDir	.snapshotディレクトリの可視性を制御します	NFSv4の場合は「true」、NFSv3の場合は「false」
size	新しいボリュームのデフォルトサイズ	「100G」
unixPermissions	新しいボリュームの UNIX 権限 (4桁の 8 進数)。SMB ボリュームの場合は無視されます。	「」（プレビュー機能、サブスクリプションでホワイトリストへの登録が必要）

構成例

次の例は、ほとんどのパラメータをデフォルトのままにする基本構成を示しています。これはバックエンドを定義する最も簡単な方法です。

最小限の構成

これは絶対に最小限のバックエンド構成です。この構成では、Trident は構成された場所にある Azure NetApp Files に委任されたすべての NetApp アカウント、容量プール、およびサブネットを検出し、それらのプールとサブネットのいずれかに新しいボリュームをランダムに配置します。なぜなら `nasType` 省略された場合、`nfs` デフォルトが適用され、バックエンドは NFS ボリュームをプロビジョニングします。

この構成は、Azure NetApp Files を使い始めて試してみる場合に最適ですが、実際には、プロビジョニングするボリュームの範囲をさらに指定することが必要になります。

```
---
apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentBackendConfig
metadata:
  name: backend-tbc-anf-1
  namespace: trident
spec:
  version: 1
  storageDriverName: azure-netapp-files
  subscriptionID: 9f87c765-4774-fake-ae98-a721add45451
  tenantID: 68e4f836-edc1-fake-bff9-b2d865ee56cf
  clientID: dd043f63-bf8e-fake-8076-8de91e5713aa
  clientSecret: SECRET
  location: eastus
```

AKS のマネージド ID

このバックエンド構成では、subscriptionID、tenantID、clientID、そして `clientSecret` マネージド ID を使用する場合はオプションです。

```
apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentBackendConfig
metadata:
  name: backend-tbc-anf-1
  namespace: trident
spec:
  version: 1
  storageDriverName: azure-netapp-files
  capacityPools:
    - ultra-pool
  resourceGroups:
    - aks-ami-eastus-rg
  netappAccounts:
    - smb-na
  virtualNetwork: eastus-prod-vnet
  subnet: eastus-anf-subnet
```

AKS のクラウド ID

このバックエンド構成では、tenantID、clientID、そして`clientSecret`クラウド ID を使用する場合はオプションです。

```
apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentBackendConfig
metadata:
  name: backend-tbc-anf-1
  namespace: trident
spec:
  version: 1
  storageDriverName: azure-netapp-files
  capacityPools:
    - ultra-pool
  resourceGroups:
    - aks-ami-eastus-rg
  netappAccounts:
    - smb-na
  virtualNetwork: eastus-prod-vnet
  subnet: eastus-anf-subnet
  location: eastus
  subscriptionID: 9f87c765-4774-fake-ae98-a721add45451
```

容量プールフィルターを使用した特定のサービスレベル構成

このバックエンド構成では、Azureの`eastus`場所`Ultra`容量プール。Trident は、その場所でAzure NetApp Filesに委任されたすべてのサブネットを自動的に検出し、そのうちの 1 つに新しいボリュームをランダムに配置します。

```
---
version: 1
storageDriverName: azure-netapp-files
subscriptionID: 9f87c765-4774-fake-ae98-a721add45451
tenantID: 68e4f836-edc1-fake-bff9-b2d865ee56cf
clientID: dd043f63-bf8e-fake-8076-8de91e5713aa
clientSecret: SECRET
location: eastus
serviceLevel: Ultra
capacityPools:
  - application-group-1/account-1/ultra-1
  - application-group-1/account-1/ultra-2
```

このバックエンド構成では、Azureの `eastus` 手動 QoS 容量プールのある場所。* NetApp Trident 25.06 のテクニカル プレビュー*。

```
---
version: 1
storageDriverName: azure-netapp-files
backendName: anf1
location: eastus
labels:
  clusterName: test-cluster-1
  cloud: anf
  nasType: nfs
defaults:
  qosType: Manual
storage:
  - serviceLevel: Ultra
    labels:
      performance: gold
    defaults:
      maxThroughput: 10
  - serviceLevel: Premium
    labels:
      performance: silver
    defaults:
      maxThroughput: 5
  - serviceLevel: Standard
    labels:
      performance: bronze
    defaults:
      maxThroughput: 3
```

このバックエンド構成により、ボリュームの配置範囲が単一のサブネットにさらに縮小され、一部のボリューム プロビジョニングのデフォルトも変更されます。

```
---
version: 1
storageDriverName: azure-netapp-files
subscriptionID: 9f87c765-4774-fake-ae98-a721add45451
tenantID: 68e4f836-edc1-fake-bff9-b2d865ee56cf
clientID: dd043f63-bf8e-fake-8076-8de91e5713aa
clientSecret: SECRET
location: eastus
serviceLevel: Ultra
capacityPools:
  - application-group-1/account-1/ultra-1
  - application-group-1/account-1/ultra-2
virtualNetwork: my-virtual-network
subnet: my-subnet
networkFeatures: Standard
nfsMountOptions: vers=3,proto=tcp,timeo=600
limitVolumeSize: 500Gi
defaults:
  exportRule: 10.0.0.0/24,10.0.1.0/24,10.0.2.100
  snapshotDir: "true"
  size: 200Gi
  unixPermissions: "0777"
```

このバックエンド構成では、単一のファイルで複数のストレージ プールを定義します。これは、異なるサービス レベルをサポートする複数の容量プールがあり、それらを表すストレージ クラスを Kubernetes で作成する場合に便利です。仮想プールラベルは、以下の基準に基づいてプールを区別するために使用されました。performance。

```
---
version: 1
storageDriverName: azure-netapp-files
subscriptionID: 9f87c765-4774-fake-ae98-a721add45451
tenantID: 68e4f836-edc1-fake-bff9-b2d865ee56cf
clientID: dd043f63-bf8e-fake-8076-8de91e5713aa
clientSecret: SECRET
location: eastus
resourceGroups:
  - application-group-1
networkFeatures: Basic
nfsMountOptions: vers=3,proto=tcp,timeo=600
labels:
  cloud: azure
storage:
  - labels:
      performance: gold
      serviceLevel: Ultra
      capacityPools:
        - ultra-1
        - ultra-2
      networkFeatures: Standard
  - labels:
      performance: silver
      serviceLevel: Premium
      capacityPools:
        - premium-1
  - labels:
      performance: bronze
      serviceLevel: Standard
      capacityPools:
        - standard-1
        - standard-2
```

Trident は、リージョンと可用性ゾーンに基づいてワークロードのボリュームのプロビジョニングを容易にします。その `supportedTopologies` このバックエンド構成のブロックは、バックエンドごとにリージョンとゾーンのリストを提供するために使用されます。ここで指定するリージョンとゾーンの値は、各 Kubernetes クラスター ノードのラベルのリージョンとゾーンの値と一致する必要があります。これらのリージョンとゾーンは、ストレージ クラスで提供できる許容値のリストを表します。バックエンドで提供されるリージョンとゾーンのサブセットを含むストレージ クラスの場合、Trident は指定されたリージョンとゾーンにボリュームを作成します。詳細については、"[CSI トポロジを使用する](#)"。

```
---
version: 1
storageDriverName: azure-netapp-files
subscriptionID: 9f87c765-4774-fake-ae98-a721add45451
tenantID: 68e4f836-edc1-fake-bff9-b2d865ee56cf
clientID: dd043f63-bf8e-fake-8076-8de91e5713aa
clientSecret: SECRET
location: eastus
serviceLevel: Ultra
capacityPools:
  - application-group-1/account-1/ultra-1
  - application-group-1/account-1/ultra-2
supportedTopologies:
  - topology.kubernetes.io/region: eastus
    topology.kubernetes.io/zone: eastus-1
  - topology.kubernetes.io/region: eastus
    topology.kubernetes.io/zone: eastus-2
```

ストレージクラスの定義

次の `StorageClass` 定義は上記のストレージ プールを参照します。

定義例 `parameter.selector` 分野

使用 `parameter.selector` それぞれ指定できます `StorageClass` ボリュームをホストするために使用される仮想プール。ボリュームには、選択したプールで定義された側面が含まれます。

```

---
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: gold
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  selector: performance=gold
allowVolumeExpansion: true

---
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: silver
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  selector: performance=silver
allowVolumeExpansion: true

---
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: bronze
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  selector: performance=bronze
allowVolumeExpansion: true

```

SMBボリュームの定義例

使用 `nasType`、`node-stage-secret-name`、そして `node-stage-secret-namespace`、SMB ボリュームを指定し、必要な Active Directory 資格情報を提供できます。

デフォルトの名前空間での基本設定

```
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: anf-sc-smb
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  backendType: "azure-netapp-files"
  trident.netapp.io/nasType: "smb"
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-name: "smbcreds"
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-namespace: "default"
```

名前空間ごとに異なるシークレットを使用する

```
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: anf-sc-smb
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  backendType: "azure-netapp-files"
  trident.netapp.io/nasType: "smb"
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-name: "smbcreds"
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-namespace: ${pvc.namespace}
```

ボリュームごとに異なる秘密を使用する

```
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: anf-sc-smb
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  backendType: "azure-netapp-files"
  trident.netapp.io/nasType: "smb"
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-name: ${pvc.name}
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-namespace: ${pvc.namespace}
```



`nasType: smb`SMB ボリュームをサポートするプールのフィルター。`nasType: nfs`または`nasType: null`NFS プールのフィルター。

バックエンドを作成する

バックエンド構成ファイルを作成したら、次のコマンドを実行します。

```
tridentctl create backend -f <backend-file>
```

バックエンドの作成に失敗した場合、バックエンドの構成に問題があります。次のコマンドを実行すると、ログを表示して原因を特定できます。

```
tridentctl logs
```

構成ファイルの問題を特定して修正したら、create コマンドを再度実行できます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。